

# 編修趣意書

## 教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
26 - 5	中学校	美術科	美術	2・3 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	美術 827	美術 2・3		

## I. 編修の趣旨及び留意点

### 「うつくしい！」をさがしにいこう

#### ・生徒の視点を大切にした教科書

——等身大の生徒の視点を大切にし、生徒が自分の思いや願いを尊重して学習できる教科書を目指しました。

#### ・授業で十分に活用できる教科書

——学習内容やねらいを明確にして構成や内容を整理し、機能的で使いやすい教科書を目指しました。

#### ・暮らしや社会とつながる教科書

——生活や社会と関わる美術の働きを取り上げ、学習内容を生活に生かせる教科書を目指しました。

## II. 編修の基本方針

### 1 生徒の視点を大切にした教科書

- 美術は特定の人だけのものではなく、誰もが心豊かに生きていくために必要なものだということを、生徒が実感できる教科書を目指しました。美術の専門的な知識だけでなく、生徒の体験や生活に根ざした内容を取り上げるとともに、掲載する生徒作品の数や大きさにも配慮し、等身大の中学生の視点を大切にしました。
- 生徒が主題を生み、試行錯誤の中で表現していく過程そのものや、制作中のまなざし、作品が完成した際の喜びの表情を取り上げました。生徒が自己の思いや表現を肯定し、学習に対する主体性を喚起し、生涯を通して美術を愛好する心情を培うことを意図しました。

### 2 授業で十分に活用できる教科書

- 全体の構成や内容を整理し、学習指導要領の目指すことを、生徒・教師が理解しやすいように示しました。『美術1』『美術2・3』の2分冊の構成とし、学校の実情に沿って題材や活動内容を選択できるようにしました。
- 身に付けたい力や学習のねらいを明確にするために、各題材には「目標」や、〔共通事項〕に関する問いかけを明示しました。また、「発想・構想を広げるためのヒント」や巻末の「技法や用具の使い方」を充実させました。

### 3 暮らしや社会とつながる教科書

- 生徒が日常生活やそれぞれの将来において、美術科で身に付けた力を生かすことができるよう、美術が私たちの暮らしや社会を美しく豊かにすることを実感できる教科書を目指しました。「生活に生かそう」マークを設け、生徒が制作した作品を身近に飾ったり、日常的に活用したりする例を具体的に示しています。
- 『美術2・3』には、「朝起きてから夜眠るまでの美術」というページを設け、生活と美術との関わりを扱いました。美術が生活に潤いをもたらしたり、役に立ったりする例を取り上げ、創造活動の喜びや意義を感じさせることを意図しました。

### Ⅲ. 対照表

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
P.2～4	はじめに	感じたことを話し合おう	○生徒自らが考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、導入部分を重視した。巻頭文として「うつくしい」を掲載し、美術の中で真理を追求していく態度が、学年の導入の授業から自然に培われていくように工夫した。——【第一号】	・P.2～4 ・P.5～7
P.5～7		朝起きてから夜眠るまでの美術		
P.8～11	絵や彫刻など	空想の世界を旅する	○自主・自律の精神を養うために、各題材の目標の文頭にチェックを入れる欄を設け、生徒自らが学習を振り返り、目標が達成できたかどうかを確かめることができるように工夫した。——【第二号】	・P.8～39 ・P.46～49
P.12～13		あれ? どうなっているの		
P.14～15		見方を変えて	○美術の学習が、豊かな情操と道徳心を培うことにつながっていることを意識してもらえるように、ページ左下に適宜、「道徳との関連」マークを示し、道徳の学習と関連する内容を記した。——【第一号】	・P.16 ・P.22 ・P.30 ・P.46
P.16～17		情景、気持ちを重ねて		
P.18～19		墨の世界を体感しよう	○それぞれの生徒の個性を大切に、創造性を培うことができるよう、多様な方法でつくられた作家や児童・生徒の作例を示すとともに、適宜「作者の言葉」を添え、作者の考え方に共感し、尊重する態度を養うことができるようにした。——【第二号】	・P.8 ・P.14～15 ・P.16～17 ・P.24 ・P.26～29 ・P.32～33 ・P.34～35 ・P.36～37 ・P.47
P.20～21		想像の生物をつくる		
P.22～23		浮世絵から学ぶ江戸の職人技		
P.24～25		原寸大で鑑賞しよう 灰色のフェルト帽の自画像		
P.26～29		自画像、今を生きるあなたへ	○自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うために、生徒どうしがかかわり合い、作品について話し合う活動や、協力して作品を生み出す活動などをうながすように配慮した。——【第三号】	・P.24 ・P.30～31 ・P.38～39 ・P.40～45 ・P.48～47
P.30～31		躍動感を捉えて	○伝統と文化を尊重する態度を養うために、我が国で大切にされてきた伝統と文化を積極的に取り上げた。——【第五号】	・P.12～13 ・P.18～19 ・P.22～23 ・P.48～49
P.32～33		形と色の挑戦		
P.34～35		環境とともに生きる彫刻	○我が国だけでなく、他国の文化も尊重する態度が養われるように、日本と西洋の作例だけでなく、アジア諸国を始め、さまざまな地域の作例を取り上げた。——【第五号】	・P.20～21 ・P.29
P.36～37		絵や立体が動き出す		
P.38～39		光と影で遊ぶ	○平和を希求する心が育つよう、また、国際社会の発展を願う心が育つよう、平和や国際協力について考えさせるきっかけになるような作品を取り上げた。——【第五号】	・P.40～45 ・P.46～47
P.40～45		特別展示室 ゲルニカ、明日への願い		
P.46～47		ともにつくる喜び		
P.48～49	原寸大で鑑賞しよう 鳥獣花木図屏風			

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
P.50～53	デザインや工芸など	メッセージを伝えるポスター	○生活との関連を重視し、つくった作品を飾ったり使ったりすることや身近な人へ贈るなどのコミュニケーションを深める活動を積極的に取り上げ、実生活で果たす美術の役割を具体的に示した。 ——【第二号】	・P.55 ・P.58～59 ・P.60～61 ・P.68～69 ・P.74	
P.54～55		情報を整理して伝える			
P.56～57		みんなのためのデザイン	○職業への意識や勤労を重んずる態度が養われるように、デザイナーや工芸家、建築家など、社会の中で活躍するつくり手の活動や言葉を紹介した。 ——【第二号】	・P.54～55 ・P.64～67 ・P.70～71	
P.58～59		暮らしの中のキャラクター			
P.60～61		心をともしあかり	○他者への思いやりと主体的に社会の形成に参画する態度が養われるように、人権・福祉の観点から、全ての人にとって使いやすいユニバーサルデザインの例や障害のある人が滞りなく社会生活を営めるよう工夫された公共空間のデザインなどを取り上げた。 ——【第三号】	・P.54～55 ・P.56～57 ・P.70～71 ・P.72～73	
P.62～63		北と南の風土から			
P.64～67		季節感のある暮らしを楽しむ			
P.68～69		包みの工夫、パッケージデザイン	○自然を大切にすることを養うために、自然の美しさに気づくことができる題材を設定し、その学習を通して自然を大切にすることを養われるように配慮した。また、美術文化を通して自然を大切にすることを養うために「着物」や「和菓子」、「風鈴」など、自然を取り入れ発展してきた美術文化を取り上げた。 ——【第四号】	・P.62～63 ・P.64～67 ・P.76～77	
P.70～71		暮らしやすい町づくり			
P.72～73		夢を形にするデザイン	○環境の保全に寄与する態度を養うために、環境と響き合う美術作品や環境の保全を伝えるポスターの例を紹介した。 ——【第四号】	・P.50～53	
P.74～75		手づくりに込める思い	○「祭りや風習」「アイヌと沖縄の文化」「地域の伝統工芸」など、郷土で大切に育まれてきた美術文化を紹介し、それらを愛し、大切にすることを養うことができるよう配慮した。 ——【第五号】	・P.62～63 ・P.64～67 ・P.74～75	
P.76～77		原寸大で鑑賞しよう 平螺鈿背円鏡			
P.78～79		学習を支える資料	発想のためのスケッチブック ひびのこづえ	○個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うために、コスチュームアーティスト・ひびのこづえ氏がどのように発想・構想し、創造的な作品にあらわすかを例として取り上げた。 ——【第二号】	・P.78～79
P.80～81			映像メディアを活用する		
P.82～83	金属や石でつくる		○自主及び自律の精神をもって学習を進められるように、巻末に「学習を支える資料」を設け、生徒自らが必要ときに技法や用具の使い方、年表を始めとする美術史に関する資料などを参考にできるようにした。 ——【第二号】	・P.80～81 ・P.82～83 ・P.84～87 ・P.88～91 ・P.92～97 ・P.98～100 ・P.101～103 ・P.104～105	
P.84～87	色と光の特徴を知ろう				
P.88～91	形と材料の特徴を知ろう				
P.92～97	トピックス美術史				
P.98～100	美術史年表				
P.101～103	絵巻物を楽しむ				
P.104～105	中学校美術、最後の時間に				

## IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

### 1 今日的な教育課題への対応

#### [特別支援教育への配慮]

- 教科書全体において、色覚特性や特別支援教育の観点から専門家による校閲を受け、すべての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点に立った編修とデザインを心がけました。

#### [伝統文化の尊重]

- 日本美術の作品を多く掲載し、伝統文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する姿勢を育成できるよう配慮しました。日本の国宝に指定されているものは、作品名に「日本の国宝」マークを添えて示しました。



日本の国宝

#### [道徳教育との関連]

- 道徳の学習と関連するページの左下には「道徳との関連」マークを示し、道徳学習と教科の関連を扱えるようにしています。各題材で「他者への思いやり」「人権」「平和」「伝統文化」「自然」「環境」など、道徳の学習に関連する内容を積極的に取り上げました。
- 全体を通し、東日本大震災を受けての美術やデザインの取り組みを紹介し、困難な状況にある他者の実情や気持ちに共感し、寄り添う美術の例を示しました。



道徳との関連

#### [ICT環境の活用]

- 作品制作の中でコンピュータを使用する活動や、インターネット等で展覧会の情報収集を促す活動、写真を利用した作品や鑑賞レポートの作成など、ICT機器を積極的に活用する例を取り上げています。

#### [キャリア教育の視点]

- 生活の中の美術の働きに生徒が関心をもつように、「生活に生かそう」マークを始め、生活や社会との関わりの中で存在する美術を随所に取り上げ、生涯にわたり美術を愛好する心情が育つよう配慮しました。

#### [人権上の配慮]

- 【みんなの工夫】で取り上げる生徒や、教科書全編にわたって登場するキャラクターは、性別による偏りがないようにしています。また、取り上げる作品の著作者についても、性別による偏りがないようにしました。

#### [安全・防災教育への配慮]

- 制作の際の安全についての注意事項は「安全の注意」マークを添えて示しました。また、公共空間の雰囲気明るくする美術の試みや災害と関わるデザインなど、安全や防災に関して役割を果たす美術を取り上げました。

### 2 授業のイメージがつかめる目標やヒント

#### [目標・〔共通事項〕]

- 各題材に目標を記し、授業のねらいをわかりやすく示すことで、生徒が目的意識をもち自律的に学習できるよう配慮しています。目標の文頭にはチェック欄を設け、学習後に生徒が自らの到達度を振り返ることができるようにしました。
- 各題材に〔共通事項〕に関する問いかけを入れ、生徒が形・色・材料・光について考えることを促しました。

#### [発想・構想のヒント]

- 表現中心の題材の随所に、「発想・構想のヒント」を設けました。生徒一人一人が自分なりの主題を生みだし、個人の感情や能力を生かして表現を追求する際の手助けとなるよう配慮しています。

#### [「生活に生かそう」マーク]

- 美術科で学習したことを自らの生活でも生かし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育成することができるようにするため、教科書の随所で生活に生かせる美術の活動を取り上げ、マークでこれを示しました。

### 3 発想や構想を支える内容の充実

#### [4ページ題材]

- 表現中心の題材の一部に、4ページ構成の題材を設けました。題材のテーマに沿った多くの作品や図版、活動例を

提示することで、表現の可能生を広げる構成になっています。「自画像, 今を生きるあなたへ」では、制作した中学生自身が自画像を手にもつ様子を1ページ大で掲載し、合唱曲としても歌われているアンジェラ・アキ氏の「手紙～拝啓, 15の君へ」の詩を添えて示しました。「メッセージを伝えるポスター」では、平和を願ってつくられてきたヒロシマ・アピールズを取り上げ、これまでのすべての作品を示しました。

#### 【【みんなの工夫】】

- 4ページ題材には【みんなの工夫】を設けました。男女一名ずつの生徒の作品づくりの過程を追い、主題の生成から、試行錯誤を経て完成に至るまでの様子を丁寧に示しました。表現の参考になるとともに、個人によって異なる感性を尊重し、生徒が安心して自分の表現を追求することができるように配慮しました。

#### 【発想のためのスケッチブック】

- 『美術2・3』では、コスチュームアーティストのひびのこづえ氏の発想から構想の流れを、作家自身の言葉や、スケッチブックとともに記載しています。主題を生み出す際の参考になる考え方やスケッチブックの活用例を示しました。

### 4 生徒の心を揺さぶる鑑賞ページを増設

#### 【巻頭「うつくしい!」】

- 見開きで作品を大きく掲載し、思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする活動を意図した巻頭のページを設けました。『美術2・3』では、美術文化や歴史への広い視野が育まれるよう、国宝「阿修羅像」を取り上げました。
- 作品とともに、巻頭文として谷川俊太郎氏による「うつくしい!」を取り上げ、鑑賞をより深めるとともに、美術科の学習を通して、真理を追求していこうとする態度が自然に培われていくことを意図しました。

#### 【特別展示室】

- 「特別展示室」は両観音のページ構成で、生徒の興味・関心を喚起する、大胆なレイアウトを試みました。生徒が自らの言葉で説明・批評し合う鑑賞の活動がより充実することを意図しました。
- 「特別展示室」では、美術作品とあわせて詩を取り上げ、生徒が共感を抱くことができるように工夫しています。『美術2・3』では「ゲルニカ 明日への願い」と題し、パブロ・ピカソの「ゲルニカ」を掲載するとともに、谷川俊太郎氏の詩「生きる」を掲載し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指しました。

#### 【「原寸大で鑑賞しよう!」】

- 1点の美術作品を原寸大図版で掲載する「原寸大で鑑賞しよう!」という題材を設けました。『美術2・3』ではゴッホの「灰色のフェルト帽の自画像」、伊藤若冲の「鳥獣花木図屏風」、正倉院宝物の「平螺鈿背円鏡」を取り上げています。1点の作品を深く鑑賞することで、細部にわたり工夫を凝らした作者の心情に思いを馳せるとともに、美術文化を理解し、尊重する態度の育成を意図しました。

#### 【「中学校美術, 最後の時間に」】

- 『美術2・3』の巻末に「中学校美術, 最後の時間に」を設けました。アンドリュー・ワイエスの「1946年の冬」を見開き大で掲載し、あわせて谷川俊太郎氏の「うつくしい!」の文を掲載しました。中学校美術の最後の時間に、3年間の学習を振り返り、今後の自分と美術の関わりについても考えを深められることを意図しました。

### 5 学習を支える巻末資料の充実

- 表現技法や用具の扱い方、形・色・材料・光に関する巻末の資料のページを充実させ、表現と鑑賞の双方に生かせるよう意図しました。技法については、『美術1』で扱った技法から発展し、「映像メディアを活用しよう」「金属や石でつくる」を掲載しています。
- 美術史年表の前に、「トピックス美術史」を設けました。「飛鳥・奈良時代の仏像」や「ルネサンス」、「ジャポニスム」など、指導する機会の多い6つのトピックを取り上げ、美術史年表の内容を補足するとともに、美術の歴史や当時の社会との関わりについて理解を深めることを意図しました。

# 編修趣意書

## 学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
26 - 5	中学校	美術科	美術	2・3 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	美術 827	美術 2・3		

## I. 編修上特に意を用いた点や特色

### 1 学習指導要領と教科書の関連

- 中学校美術科の学習を通して、生徒が美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を身に付け、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことができるように、教科書全体を通して教科目標達成を心がけました。

### 2 教科書の構成

#### 〈全体の構成〉

- 第1学年で学習した内容が第2・3学年の内容につながり、深まるように、学年の系統性を配慮して構成しました。第1学年では小学校図画工作科とのつながりを意識し、基礎となる資質や能力の定着が図れるような題材を設定しています。第2・3学年は、第1学年で身に付けた資質や能力をさらに深め、歴史や社会との関係などに視野を広げられるような内容で構成しました。また、第2・3学年を1冊にまとめ、豊富な題材を各校の実情に合わせて選択できるようにしています。

#### 〈各冊の配列〉

- 各冊は、「はじめに」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」で構成し、学習を通して身に付けたい力や授業の流れをイメージしやすいようにしました。
- また、学習の中心となる題材は、「表現中心の題材」と「鑑賞中心の題材」に大きく分け、それぞれのバランスや配列を考えるとともに、相互に関連を図れるようにしています。

### 3 各領域の内容と特色

#### 〈「A 表現」について〉

- 「表現中心の題材」では、「発想・構想の能力」と「創造的な技能」とを関連して扱えるよう、目標や活動を示し、相互の資質や能力が一層高まるように配慮しました。
- 「表現中心の題材」では、「描く活動」と「つくる活動」のいずれもが経験できるように、作品の選定や取り上げる活動のバランスに配慮しました。
- 「表現中心の題材」の一部に、4ページ構成の題材を設けました。題材のテーマに沿った多くの作品や図版、活動例などを掲載し、表現の可能性が広がるよう配慮しました。4ページの紙面を生かし、「自画像、今を生きるあなたへ」では制作した中学生自身が自画像を手に持つ様子をページ大で掲載するとともに、アンジェラ・アキ氏の「手紙～拝啓 十五の君へ」の歌詞を添えています。「メッセージを伝えるポスター」では、平和を願ってつくられたヒロシマ・アピールズのポスターを全作品掲載しました。
- 4ページ構成の題材には、男女一名ずつの生徒の制作過程を追った【みんなの工夫】を設けています。主題の生成から試行錯誤を経て完成に至るまでの様子を丁寧に示し、生徒の表現の参考になるよう配慮しました。
- 「発想・構想の能力」を育むために、「発想・構想のヒント」や【みんなの工夫】など、生徒が発想を広げたり構想

を練ったりする際のヒントを随所に盛り込んでいます。

- 「創造的な技能」を育むために、巻末の「学習を支える資料」で、技法や用具の扱い方などを取り上げました。また、関連する「表現中心の題材」の右下には、「学習を支える資料」で説明している技法や用具の扱い方などの該当ページを示し、生徒がそれを参考にして創意工夫できるようにしています。
- 全体を通してさまざまな画材や技法、「映像メディア」など、多様な表現方法を取り上げ、生徒が主題や自分のイメージに合わせて表現方法を選択できるように配慮しました。

#### 〈「B鑑賞」について〉

- 全体を通して「説明し合う・批評し合う鑑賞」「比較して味わう鑑賞」「知識・理解を深める鑑賞」「表現との関連を重視した鑑賞」など、切り口の違う多様な鑑賞活動を示しています。
- 両観音ページを生かした「特別展示室」や、作品を原寸大で掲載した「原寸大で鑑賞しよう」など、生徒の興味・関心が高まるよう美術作品の見せ方を工夫しています。
- 制作者である作家や生徒の心情や意図を理解するための「作者の言葉」を随所で紹介し、鑑賞活動が深まるように工夫しました。
- 全体を通して、我が国で大切にされてきた伝統と文化を積極的に取り上げました。なかでも文化財保護法に基づき日本の国宝に指定されているものについては、作品名に「日本の国宝」マークを添えて示しています。
- 日本と西洋の作品だけではなく、アジアをはじめ、さまざまな地域の作品を取り上げ、幅広い視野での鑑賞活動ができるような作品選定を心がけました。

### 4 学習効果を高めるための、構造上の工夫点

#### 〈「目標」〉

- 主として「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」には、題材名の横に「目標」を明示し、身に付けたい力や学習のねらいが明確になるようにしました。「表現中心の題材」では「関心・意欲・態度に関する目標」「発想・構想に関する目標」「創造的な技能に関する目標」「鑑賞に関する目標」の四つを示し、「鑑賞中心の題材」では、「関心・意欲・態度に関する目標」と「鑑賞に関する目標」の二つを示しました。
- 「目標」の文頭にチェックを入れる欄を設け、生徒自らが学習を振り返り、目標が達成できたかどうかを確かめることができるようにしました。

#### 〈「共通事項」〉

- 「目標」の下に〔共通事項〕に関する問いかけを記し、すべての学習活動の中で常に〔共通事項〕の内容を意識できるようにしました。
- 〔共通事項〕に関する問いかけは、「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」のどちらにも記すことで、表現と鑑賞の相互の関連を図り、学習の効果が高まるようにしました。
- 巻末の「学習を支える資料」内に、「色と光の特徴を知ろう」「形と材料の特徴を知ろう」を設け、形や色、材料や光などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりすることができるように工夫しています。

表現 絵や彫り物

## 浮世絵から学ぶ 江戸の職人技

木版画の浮世絵は、複数の人々によって制作された。まず、どんな版画にするかを決める版元。次に、絵柄や色などを決める絵師。その絵を基に版木をつくる彫師。そして、版木に色をつけて摺る摺師がいた。大迫力の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」も、絵師である葛飾北斎の力だけでなく、彫師による鋭い波頭の彫りや、摺師による鮮やかな色があって、初めて生まれたものだ。

**目標**

- 木版ならではの表現のよさや美しさを味わおう。
- 彫りや摺りの効果を考え、下絵の構想を練ろう。
- 彫りや摺りの手順を考え、見通しをもってあらわそう。
- 浮世絵が江戸時代に大流行した理由を調べ、話し合おう。

**Q** どんな摺り色や紙の色にすれば、効果的にあわせるだろう？

## 〈目次〉

- 目次は「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の学習指導要領の他、「はじめに」「学習を支える資料」などが色帯で即座に認識でき、また、表現中心、鑑賞中心の題材が形で識別できる記号であらわされています。
- 各題材は自由に選択できるだけでなく、年間の計画を立てる際の参考となるように、目次の題材名の前に点線を第2学年、一本線を第3学年として示し、2年次・3年次の題材として目安になるようにしています。

## 〈インデックス〉

- インデックスは目次と連動しており、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の学習指導要領の項目と、「表現中心の題材」、「鑑賞中心の題材」、そして「学習を支える資料」などが一目で分かるデザインとなっています。
- インデックスについては、色覚特性の観点からの校閲を行い、色や文字を工夫しました。



## 〈10個のマーク〉

- 目標、〔共通事項〕の問いかけ、発想・構想のヒント、作者の言葉、国宝、コラム、安全の注意、道徳との関連、巻末資料へのリンク等、全10個のマークで学習しやすい教科書を目指しました。
- 「生活に生かそう」マークを設け、暮らしや生活の中で生かせる美術の活動を明示しました。

10個のマーク				
 目標	 〔共通事項〕の問いかけ	 発想・構想のヒント	 作者の言葉	 生活に生かそう
 日本の国宝	 コラム	 安全の注意	 道徳との関連	 巻末資料へのリンク

## 5 充実の鑑賞ページ

### 〈巻頭「感じたことを話し合おう」〉

- 見開きで作品を大きく掲載し、思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする活動を意図するとともに、生徒の発達段階を意識して作品を選定しました。『美術2・3』では、美術文化や歴史への広い視野が育まれるよう、国宝「阿修羅像」を取り上げました。
- 上記の作品とともに谷川俊太郎氏による「うつくしい!」を取り上げ、学年の導入から美術の中で真理を追求していくとする態度が自然に培われていくことを意図しました。

### 〈巻頭「朝起きてから夜眠るまでの美術」〉

- 巻頭の片観音ページでは、学年初めのオリエンテーションの授業で使用されることを意図し、「朝起きてから夜眠るまでの美術」を設けました。生活と美術との関わりの広さを感じ取ってもらえるように構成を工夫しました。

### 〈「特別展示室」〉

- 「特別展示室」は両観音のページ構成を生かしたレイアウトを試みました。生徒の興味・関心を喚起しながら、説明し合う・批評し合う鑑賞の活動が充実することを意図しました。
- 「特別展示室」は、テーマにふさわしい美術作品と詩を取り上げ、生徒が共感を抱くことができるように工夫しました。『美術2・3』の「ゲルニカ、明日への願い」では、平和を希求する心が培われることを願い、パブロ・ピカソの「ゲルニカ」を掲載しました。また、制作中のパブロ・ピカソの写真とともに谷川俊太郎氏の「生きる」を掲載し、「ゲルニカ」を鑑賞するうえでの手助けとなるよう工夫しました。

## 6 巻末の「学習を支える資料」の充実

### 〈発想のためのスケッチブック〉

- 「発想のためのスケッチブック」という資料では、コスチュームアーティスト・ひびのこづえ氏のスケッチブックや言葉を掲載し、生徒が発想を広げたり構想を練ったりする際の参考になるようにしました。

### 〈「技法と用具」・〔共通事項〕〉

- 「技法と用具」に関する資料では、『美術1』よりも発展的な「金属」「石」「映像メディア」などの技法や用具の使い方を掲載しました。
- 「色と光の特徴を知ろう」「形と材料の特徴を知ろう」という資料では、〔共通事項〕に関連する内容を取り上げ、それを表現や鑑賞の活動に生かせるようにしました。特に「色と光の特徴を知ろう」では、伝統色やかさねの色目について、1ページを使って丁寧に紹介しています。

### 〈トピックス美術史・年表〉

- 「飛鳥・奈良時代の仏像」や「ルネサンス」「ジャポニスム」など6つのトピックを扱った「トピックス美術史」と、日本及び諸外国の美術史を整理した「美術史年表」を設け、美術文化に関する知識・理解が深まるよう配慮しました。

### 〈「中学校美術、最後の時間に」〉

- 「中学校美術、最後の時間に」と題して、中学校の3年間で培った知識や経験を生かし、作品に対する新しい価値をつくり出せるよう、アンドリュー・ワイエスの「1946年の冬」を取り上げました。
- 上記の作品に谷川俊太郎氏の「うつくしい!」を添え、中学校美術科の授業を振り返りながら、真理を追求していくとする態度を育むことを意図しました。

## 7 その他の内容と特色

### 〈言語活動の充実に向けた視点〉

- 「作者の言葉」を随所で取り上げ、言語を通して制作者である作家や生徒の心情や意図がより理解できるように工夫しています。
- 感じ取ったことを説明し合う鑑賞の活動での使用を意図し、作品をページ大の大きさなどで取り上げ、言葉で説明する前に、その作品から全体や細部までさまざまな印象を感じ取ることができるようにしています。
- 自分がつくった作品を手渡したり、説明し合ったりする活動を随所に設け、コミュニケーション能力の育成と言語活動の充実を期しました。

### 〈安全指導への配慮〉

- 「学習を支える資料」では、安全についての注意事項を「安全の注意」マークで示しました。特に彫刻刀や電動糸のこぎりなど、安全な使い方が求められるものについて記しています。

### 〈著作権・肖像権への配慮〉

- 「映像メディアを活用しよう」では、「安全の注意」マークの中で著作権・肖像権への配慮について示しています。

### 〈文字〉

- 読みやすさに配慮して、本文や解説文などの文字を、適切な大きさにするとともに、独自に開発した読みやすい書体を採用しています。
- 教科書上での表記を統一するとともに、未習漢字や固有名詞などには読み仮名を振り、学習がより円滑に進むように配慮しました。

### 〈製版・印刷・製本〉

- 高品質な作品画像データを使用し、印刷では製版と印刷の緻密な色調整を行い、美術作品などの原画の色彩をできる限り忠実に再現するとともに、質感も再現するようにしました。
- 本文用紙には発色のよいコート紙を用い、色彩再現性・鮮明度を向上させています。

### 〈環境への配慮〉

- 環境に配慮した紙と、植物油インキを使用しています。

## Ⅱ. 対照表

美術2・3

ページ		題材名等	学習指導要領の内容		
			A 表現	B 鑑賞	(共通事項)
P.2～4	はじめに	感じたことを話し合おう		(1)アウ	(1)アイ
P.5～7		朝起きてから夜眠るまでの美術		(1)アイ	(1)アイ
P.8～11	絵や彫刻など	空想の世界を旅する	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.12～13		あれ? どうなっているの	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.14～15		見方を変えて	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.16～17		情景, 気持ちを重ねて	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.18～19		墨の世界を体感しよう	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.20～21		想像の生物をつくる	(1)アイ (3)アイ	(1)アウ	(1)アイ
P.22～23		浮世絵から学ぶ江戸の職人技	(1)アイ (3)アイ	(1)アイウ	(1)アイ
P.24～25		原寸大で鑑賞しよう 灰色のフェルト帽の自画像	(3)ア	(1)ア	(1)アイ
P.26～29		自画像, 今を生きるあなたへ	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.30～31		躍動感を捉えて	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.32～33		形と色の挑戦	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.34～35		環境とともに生きる彫刻	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.36～37		絵や立体が動き出す	(1)アイ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.38～39		光と影で遊ぶ	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.40～45		特別展示室 ゲルニカ, 明日への願い		(1)アイ	(1)アイ
P.46～47		ともにつくる喜び	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.48～49		原寸大で鑑賞しよう 鳥獣花木図屏風	(1)ア (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.50～53		デザインや工芸など	メッセージを伝えるポスター	(2)アイ (3)アイ	(1)アイ
P.54～55	情報を整理して伝える		(2)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.56～57	みんなのためのデザイン		(2)アウ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.58～59	暮らしの中のキャラクター		(2)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.60～61	心をともしあかり		(2)アウ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.62～63	北と南の風土から		(3)アイ	(1)アイウ	(1)アイ
P.64～67	季節感のある暮らしを楽しむ		(2)アウ (3)アイ	(1)アイウ	(1)アイ
P.68～69	包みの工夫, パッケージデザイン		(2)アウ (3)アイ	(1)アウ	(1)アイ
P.70～71	暮らしやすい町づくり		(2)アウ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.72～73	夢を形にするデザイン		(2)アウ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.74～75	手づくりに込める思い		(2)アウ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.76～77	原寸大で鑑賞しよう 平螺鈿背円鏡		(3)アイ	(1)アイウ	(1)アイ
P.78～79	学習を支える資料	発想のためのスケッチブック ひびのこづえ	(2)アイウ (3)アイ	(3)アイウ	(1)アイ
P.80～81		映像メディアを活用する	(3)アイ		(1)アイ
P.82～83		金属や石でつくる	(3)アイ		(1)アイ
P.84～87		色と光の特徴を知ろう	(1)アイ (2)アイウ (3)アイ	(1)アイウ	(1)アイ
P.88～91		形と材料の特徴を知ろう	(1)アイ (2)アイウ (3)アイ	(1)アイウ	(1)アイ
P.92～97		トピックス美術史		(1)アイウ	(1)アイ
P.98～100		美術史年表		(1)ウ	(1)アイ
P.101～103		絵巻物を楽しむ		(1)アイウ	(1)アイ
P.104～105		中学校美術, 最後の時間に		(1)ア	(1)アイ